

文部科学省 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業



慶應義塾大学パネル調査共同研究拠点 活動報告 Activity Report No.9

シンポジウム 教育・医療・社会保障と税制度

【日時】2011年3月11日(金) 13:00~17:00

【場所】慶應義塾大学三田キャンパス西校舎517教室

【プログラム】

開会の挨拶

樋口美雄(パネルデータ設計・解析センター長/商学研究科委員長)

報告(前半)

『所得税制改革が家計に与える影響』

土居丈朗(経済学部教授)

朴宝美(慶應義塾大学経済学部奨励研究員)

『親との同居をしている若者の貧困』

駒村康平(経済学部教授)、他

『健康維持政策による再分配効果のパネル分析』

河井啓希(経済学部教授)

『経済的地位と健康』

石井加代子(商学研究科特別研究講師)

報告(後半)

『子どものパネル調査:その意義とJHPS子ども特別調査の概要』

『子どもの学力には何が影響するか:JHPS子ども特別調査の
分析結果から』

赤林英夫(経済学部教授)、他

『理系学部出身者と文系学部出身者の年収比較 日本家計
パネル調査(JHPS)データに基づく分析結果』

西村和雄(京都大学経済研究所特任教授)、

浦坂純子(同志社大学社会学部准教授)、

平田純一(立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授)、

八木匡(同志社大学経済学部教授)

本拠点では、家計の所得変化や階層間移動や、税・社会保障制度の家計への影響や制度改正に関する政策評価を目的として、義塾内外の研究者と連携を取りながら、パネル調査『日本家計パネル調査(JHPS)』の設計・実施を行っています。さらに、昨年度から今年度にかけては、調査対象者の子弟に向けて学力調査や教育環境に関する調査(子ども特別調査)を実施し、家庭環境と子どもの学力とのかかわり等について分析を進めています。

パネル調査の成果発表、および、調査の周知を兼ねて、3月11日(金)に慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、「シンポジウム 教育・医療・社会保障と税制度」を開催しました。本シンポジウムでは、拠点が設計・実施したJHPSの調査結果に基づき、6つの演題が報告されました。税・社会保障制度に関する報告としては、所得税制改革の家計への影響をシミュレーション分析した研究、わが国の貧困問題を居住状況の側面から分析した研究の成果が報告され、医療に関する報告としては、所得階層間における医療サービス利用の公平性に関する分析の成果などが報告されました。教育関連の報告としては、JHPS子ども特別調査の概要と分析結果や、理系文系間における年収格差を解明した分析結果が報告されました。

本シンポジウムには、大学・民間シンクタンク等の研究者、行政関係者など100名を超えるお申込をいただきました。当日は、地震により一時中断したものの、フロアからも熱心なコメント・質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。



樋口美雄センター長より開会挨拶



集合写真